

第14号

つむぐニューズレター

新潟いのちの物語をつむぐ会

事務局:〒940-0075長岡市渡里町1-2長永寺(木曾 隆)

電話:0258-33-0804/Mail:info@tyoueiji.com

https://www.inochinomonogatari.com



例会テーマ
空海
～救い・救われ～

●法話「空海のミッションは何だったのか？」 普光寺 住職 樺澤 賢正 さん

空海(774～835年)は真言宗の開祖。最澄とともに平安仏教を代表する僧侶で弘法大師と呼ばれる。讃岐国郡(現在の香川県善通寺市)に郡司の子として生まれる。15歳のとき上京し、『論語』や『史伝』などを学び、18歳の時、京都の大学寮に入り、漢学などを学ぶが、翌年ごろから山林での修行に入り、四国の各地で修行した。23歳で『三教指帰』を書き、儒教や道教に対する仏教の優位を説いた。29歳の時、遣唐使の留学僧に選ばれ翌年入唐。恵果に師事し密教を学び、師の死後は20年の留学期間を2年で切り上げ帰国。高野山に金剛峯寺を建て真言宗を開いた。真言は大日如来の真実の言葉の意で、その秘奥を指して密教と呼ばれる。42歳での高野山の開創に取り掛かり、49歳で京都の東寺(教王護国寺)を勅旨され、真言宗の確立に努めた。空海は、わが国初の民衆の教育機関である綜芸種智院の創立や灌漑地の改修工事や土木工事などをしながら日本各地を巡り、庶民の教化につとめた。62歳で高野山奥の院に入定。

さて、師である恵果から空海へ「無事に伝授もすみ、持ち帰る經典・仏具なども完成した。空海よ、早く日本に帰って、この真言密教を国家に奉呈し、天下に広めて、蒼生(そうせい=人々)の幸福を増しなさい。そうすれば、人々は幸せとなり、生きる喜びも一層増すであろう。そして、そのことが御仏の恩に報いることであり、師の恩に報いることである。」と願いが示さ

れている。この「蒼生の幸福を増す」という願いを実現することが、恵果からのミッションであり、それが空海の願い、かつ空海が目指されたものといえる。

では、「蒼生の幸福」を増すために空海は何を実行されたのであろうか。①満濃池の修築②綜芸種智院の開設③万灯会の開催④後七日御修法の4点に絞ってみたい。①②は実践によって、③④は祈りによって、「蒼生の幸福を増す」ことを目指されたといえる。これらの行動理念は何であろうか。それは、心・仏・衆生の「三平等観」であろう。すなわち、自らの心を知ることは、仏さまの心を知ることであり、仏さまの心を知ること、他者の心を知ることである。そして、この自心・仏心・衆生心の三つの心が平等と知ることが、覚りを得た者であるとする考えである。別言すれば、人にはさまざまな違いがあり、その違いをことさらに強調するのではなく、自分にも、他者にもある仏心に注目していけば、同じ仏心をもつ人という平等の心が生じ、その平等の心から、他者への尊敬や慈愛がさらに生じてくる。これが空海の行動原理であり、ここから発生した祈りが、高野山で執り行われた「万燈会」であり、宮中真言院で執り行われた「後七日御修法(ごしちにちみしほ)」である。

「万燈会」の願文で「…虚空尽き衆生尽き涅槃尽きなば我が願いも尽きなん…」

(時空が尽き、生きとし生けるものが尽き、目覚めの意識が尽きるまでわたしの願いは終わることはないでしょう。)と云い、更に「…空を

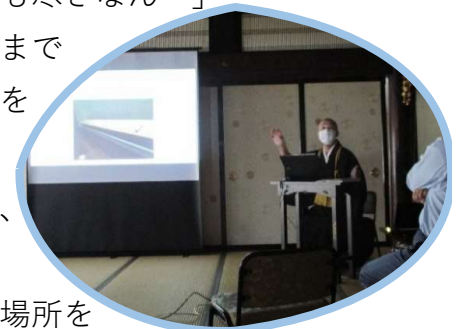
はらい、地に沈み、水を流し、林に遊ぶもの、すべてこれ我が「四恩」なり。同じく共に一覚に入らん…」(鳥は大空に羽ばたき、虫は地にもぐり、魚は水に泳ぎ、動物たちは林に遊んでいる。

すべてのいのちは、親があることによってこの世に生を受け、住み場所を

得、生きとし生けるものの相互扶助のはたらきと、そのはたらきにしがういのちの原理によって生かされていることに感謝します。そして、すべてのいのちが平等に生き、その"智のちから"によって調和している世界に、共に入ることができるように、ここに祈ります。)と述べている。

「御修法(みしほ)」は、真言宗の最高の儀式といわれ、弘法大師の教えを実践し、相互供養(たがいに助け合う)と相互礼拝(たがいに尊敬しあう)の精神で、すべての人々の幸せと、世界平和をお祈り申し上げる大切な行事である。

昨今のSDGs(持続可能な開発目標)は、私たちが一つしかないこの地球で生きていくことができる持続可能な世界を実現するための指針といわれている。つきつめれば、他者への思いやりに行き着くであろう。それを空海は「三平等観」と表現しているのである。コロナ禍によってあらわになったひずみ、SNSでの他者への誹謗中傷、地球温暖化、ウクライナ侵攻が問題となっている今日、他者との違いを主張するのではなく、共に有している仏心に注目して、平等の立場から他者の「蒼生の幸福を増す」ことを祈り、実践していくことが切に求められているのではないだろうか。それこそが地球の全ての生命体を「四恩」と表現された空海の願いであり、今こそ心・仏・衆生の「三平等観」に基づいた「蒼生の幸福を増す」ことを自らの願いとして歩んでいく時であろう。



● 基調講演「空海・弘法様の御利益」 医療法人社団 萌気会 前理事長 黒岩 卓夫 さん

実はこうした演題でおまけに巨人の空海さんのことを話するようにとのお達しがあり、さて困ったなと思いながら書いてみました。

しかし御利益とか、旨ある未来を望むとか、困ったことから救ってほしいとか、日常的に誰でも身近な経験がありますね。弘法さまは、人は誰でも、生きもの全てが、安心して生きられる環境をつくる神さまになっています。また神仏は、おみくじ、占い、八卦、六三など御利益ではないにしろ、お願い事ですね。神仏は、お寺・神社・神棚・仏壇・お墓に住んでいるようです。

空海は密教で真言宗ですので、修験道・山伏の力としても地域には住みついています。もっとも空海は山伏のような存在はあまり認めないとも言われています。そこで私がこの魚沼という土地にやってきて、旧大和町（人口1万5,000）に医師として仕事を始めました。この町の神仏はどうでしょうか、浦佐の普光寺は真言宗の由緒ある立派なお寺です。このお寺の住職さんは、高齢の人間性豊かなお人でした。



もうお一方は、藪神に円通寺があり、曹洞宗でしたが、これまた人気のある尼さんでした。普光寺の御住職は男ですが、文字通り男の願い事をニコニコ、ズバリと相談に乗ってくれました。“スケベエ”な話は大好きでした。円通寺の尼さんは村の女性の愚痴や願い事をしっかりと聴いてくれました。この西の普光寺東の円通寺、さらに八海山の里宮にもあたる八海大社は八海山の尊い山岳信仰のうえに、宮司さんが山伏のように村をまわり、お日まち、お月まちと訪問しながら相談にのってくれました。この宮司さんは、お人柄が文字通り“神さま”でした。

皆さん「神さま」の定義は御存知でしょうか。神さまの条件は3つあり、1、私利私欲がない。2、何か特技がある、空を飛ぶとか。3、威厳がある。この八海山の宮司は1.2.3そろっている。特技は背中を触ったりして、子どもの身体の歪みを治したり、病気を治すとか。また山伏のやるような独特の薬草をとってきて、信者の家にあげるとか、何やら珍しい食物をひょっこりあげるなど。私もいただきました。

信者の講も多く、神社はどんどん大きくなるなど、火渡り大祭でも有名。

さて空海はあの時代にあって、きわめて合理的科学的な事業、大術をふろうとか、温泉や泉をあてるとかありましたね。また私は地元医師会の医療史を編纂するときに付録として、石仏を老人クラブの協力を得て集めました。



観音様は目の神様でした。この土地は盲目の瞽女さんの活動もあったように、目の不自由な人が多かったせいです。耳は地藏様で、キリを捧げるとか。イボトリ地藏もありました。石仏に御利益にあずかろうとしたものです。

空海・弘法さまの御利益の話が広がってしまいましたが、今の若い人の心も昔と変わらないのではと思います。

●ミュージカル「HERO～奇跡の僧侶空海と青年の物語～」成功の御礼 脚本・演出・製作 松岡 春和 さん

昨年2024年7月14日、聖籠町民会館にてミュージカル「HERO～奇跡の僧侶空海と青年の物語～」を満員御礼、大成功する事が出来たのは、ひとえに実行委員長である黒岩先生、をはじめとする実行委員会の方々、および、萌気会の皆様のお力によるものだったと深く感謝しております。

この舞台は、2023年10月に高知市のご依頼で、原作から作り上げたオリジナル舞台になります。

文化事業の一環として舞台を作って欲しい、とのご要望。「空海をやらせてください」との返答に、高知市側はあまりにもテーマが大きいので即答出来兼ねるとして、数日間検討の結果、許可が下りたものです。原作はどこにあるのですか？の問いに、これから作ります、とお答えすると、とても驚いた顔で困惑されながら、大丈夫ですか？と何度も聞かれたことを記憶しています。

義務教育の6年間と、高校3年の計9年間、一度も授業中にノートを取らなかった私は、文章と言うか文字を書く事に不慣れでした。

ただ、私が初めて脚本らしきものを書いたのが中学3年の時、体育祭での出し物で演劇をやれ、との担任のリクエストで内容詰めの検討会中の30分間で一挙に書き上げた脚本を担任がえらく気に入って採用され、体育祭当日上演した時が初めてノートを文字が埋めた瞬間でした。ちなみにその時の脚本の題名は「選挙で賄賂をばら撒いた町長を正す正義の味方の物語」でした。（笑）

15歳の頃から私自身に始まった不思議な体験の連続の中、夢枕に出て来たある僧侶が私に「何でもっと早くせなんだ！！」と鬼気迫る形相で訴えて来た体験が、今回の空海さまのミュージカルの出発点でした。後にその僧侶が弘法大師空海さまだったと知り、いつか空海さまが託した思いを形に表して伝えたい、と思い続けていた今回の原作脚本、ミュージカルとなりました。

ただ舞台の内容は、空海を称える為だけの舞台では無く、登場する現代の悩める青年が、人の為に生きる生き方に希望を見出して行く、その点がメッセージとなる様に構成されています。

空海だけで無くとも、歴史に名を残す偉人達であれば、誰しも自分を崇めてもらうことなどちっとも気にしないはずで、きっと彼らが生前やり続けた実践、行動、願い、に共感し実際に行動する事を何よりも望まれ喜ばれるはずだ、と思うのです。それらの思いが未消化なままこの現代に残り続けるのではなく、形に表し伝え啓発していくことが、この舞台の使命だと思いながら製作して来ました。人々の為に生涯を捧げた空海と言う偉人の真の願いが、彼と同じ思いを抱き、実践されその結果、人々が世界が平和で幸福に満ちたものになる事ではないかと。

近年、聖徳太子は架空の存在だったのでは？などと言う不思議な話がニュースに流れた事がありました。過去の歴史は不確定要素が多いのが普通ですが、それを「無い」と断定する事には驚きでした。仏教を国教（国全体で学びその教えを国の礎とする）とした聖徳太子は、仏教の中にあるいくつかの真理に衝撃を受けての事だったのでは、と思うのです。それは、転生輪廻、カルマの法則、梵我一如、これらの中に貫かれた真理に、だったのでは、と。



魂は永遠で生まれ変わる。服を脱ぎ着する様に肉体を纏うもの。

悪い事をしたら誰も見ていなくとも、いずれは自分自身に帰ってくる。

人は本来、神仏であり、貴重な存在である。

これらの基本的な仏教の教えを考えるだけで、秩序と道徳性は自ずと育ち守られ、人は生命力あふれる存在となるのではないかと思います。

今の社会で起こっている理不尽な出来事、不条理な事、などは、この「自分自身に返ってくる」と言う言葉を熟慮するだけでも、かなり均衡を取ることが出来るはずではないかと。

王様であっても悪い事をすれば最下層に、最下層に生まれても良き行いをすることで王様に、生まれ変わる。

一人一人が神仏であり、その様に生きる事が出来る。

ピラミッド型の社会体制を維持したい、そんな権力志向の一部の人々からすると、この仏教の教えの基本は煙たいものなのかもしれません。

空海が夢見た、追い求めた理想の未来。それはきっと平和で、助け合い、奢りの無い、幸せに満ちた世界だったかと思います。

私たちが、道徳性を取り戻し、何時までも幸せで、見えない力にも守られた社会・人生である為に、自分の為だけに生きるのではなく、誰かの為、人の為に生きるそれを身に着け実践し、次の世代にその生き方を伝えて行くことで、空海が「何でもっと早くせなんだ！！」と求めた未来を実現できるものなのかも知れません。



2025年6月14日/15日、長岡市立劇場にて、ミュージカルの再演が決まり準備が進んでおります。

空海からの現代に向けたメッセージが皆さんに届くことを心から祈っております。

●参加者によるいのちの物語をつむぐタイム

- ・ 7月のミュージカルを観に行った。自分ら率先して行ったわけではないが、思いの外、死や生について考えるきっかけになった。
- ・ 空海、宗教に若い方が救われたということに関心がもてた
- ・ 5年前に熊と戦った。山登り中に滑落し、正面对決だった。熊に生かされたと思ったら、人付き合い等が苦手だったが毎日が楽しく生活ができています。
生きる事にありがたさを感じている。
- ・ 2年前に母が亡くなった。帰れば家に居る感じがする。10月初めに義兄が亡くなり妻が毎日、兄の夢を見る。「夢って何だろう」。
- ・ 猫を何匹か飼っている。動物を自分の敷地に埋めていい？⇒良いと思います。土に還って行く。
長岡の樺澤住職の龍蔵寺に霊園がある。
- ・ 自分の最期、骨を大好きだった所に撒いてくれとお願いしている。



- ・ 医療と宗教の会で東京まで行っている。この会はありがたい。
- ・ 松岡さんの話、胎内記憶、神様との約束、ありえないことを体験、あるんだなと。
- ・ 4年前埼玉からの移住。深い雪の年、なだれにあった。指先も動かない。
もうだめかもしれないと、体の上のほうで感じた。普段手伝ってくれない息子がたまたま手伝ってくれた。息子が助けてくれた。助かって、その時のことを思い出すと涙がとまらない。
人間で生かされて生きている。
- ・ 肉体がなくなれば魂は消える。死にたくても死ねないのはかなわない。死ねなくて困っている人はたくさんいる。あの世はあっていいと思っている。
- ・ 今の話題については何も考えていない。お盆と正月は仏壇に手をあわせるが、家族は意識して生きていない。



- ・ちゃんとやっていないと走り切れない。私のからだには何が起きるだろうかと考えながら走る。
- ・2年前に新潟のおばあちゃんが亡くなった。人の為に色々やったひとで「人のためになにかをしなさい。」と言っていた。利他の行いが自分に返ってきた。
- ・涙の役割、ライ病の方が青森の実家へ帰り、目があるかどうか分からない人の目から涙があふれてきた。
- ・家を建ててすぐに裏山が崩れた。半分位流された。その時、死んだと思った。その2年後病気をしたが、死ぬ気がしなかった。主治医からも助かると言われた。だからこうして生きている。こうやって死んでいくのかなと思った。死んだらどうなるのかなと思った。なんとかなるのかなと常に思っている。明日朝目が覚めないかもしれないとは思ってはいる。後悔しないようにしている。

● 懇親会 in 普光寺

昨年の7月24日、聖籠町文化会館を超満員にし、多くの方の胸に深い感動を刻んだ時空超越ミュージカルHERO！

今年は6月14日（土）の夜と、6月15日（日）の昼に長岡市立劇場大ホールにて開催されます！ダンスや歌を稽古するのみならず、奉仕活動に参加し、利他の喜びを表現すること。

戦後80年の今、平和への強い願いを伝えることも、このミュージカルの目的です。

今なら、演ずる側、観る側、いずれにも参加可能です。

つむぐ会の役員も多く実行委員に名前を連ね、普光寺の樺澤住職は出演もされています！！

皆さま、どうぞお誘いあわせの上、ご参加下さい！

[公演情報]

2025年6月14日（土）18:00開演 / 21:00終演

6月15日（日）13:30開演 / 16:30終演

長岡市立劇場（長岡市幸町2丁目1番2号）

[チケット販売]

2025年3月1日より～ローソンチケット・長岡市立劇場にて

[ミュージカル参加要項]

https://docs.google.com/document/d/1dXDVIS9xovktGf5g4D3D9eb_FavXBegXiXCoE0tIFV4/edit?usp=sharing

4/edit?usp=sharing



第14回例会 in 上越柿崎のご案内

日 時 : 5月24日(土) 14時(受付13時30分～)
会 場 : 浄福寺(上越市柿崎区柿崎6654 電話025-536-2535/FAX 536-2674)
懇親交流会 : 17時30分～ 岩野屋旅館 柿崎駅前徒歩1分 ☎025-536-2328
テ ー マ : 「人生100年時代を生きる覚悟と心得

～未来へつなぐ《介護(者)カフェ》～」

話題提供 : 宇良千秋(うらちあき)さん
東京都健康長寿研究所研究員 心理学博士
https://researchmap.jp/ura_chiaki

申 込 : 新潟いのちの物語をつむぐ会事務局
長岡市渡里町1-2 長永寺内
電 話 : 0258-33-0804
E-mail : info@tyoueiiji.com
HP : <https://www.inochinomonogatari.com>

参 加 費 : 一般1000円 会員500円 学生無料

懇親・交流会 : 5,000円

* 宿泊希望者 : 一泊朝食付5,000円



ごあいさつ(第14回実行委員長 小出優子(世話人代表/市民))

新潟いのちの物語をつむぐ会は、誰の身の上にもある生老病死について、市民、医療・福祉関係者と宗教者が一堂に集い、フラットな関係で意見交換を行い、学び合い、これら(生老病死)を自然の営みとして穏やかに受け入れる心の醸成と、いのちの尊厳についてのより深い理解を共有し「いのちの物語」をつむぐことを目的としています。

年二回の例会では、参加者一人一人が自分の体験や考えを自身の言葉で披歴し紡ぎ学びあいます。話を聴くだけの会ではありません。

今回のテーマは「介護」です。介護をしたりされたりしている現在進行形の方々と看取りをされて過去完了の方も、必ずや自分自身の身の上にも訪れる未来の課題が「介護」です。

一緒に、輪になって語り合いましょう。



編集後記

図らずも、魚沼浦佐例会を復習させて頂く機会を頂きました。樺澤住職、黒岩先生、松岡さんと、三者三様の表現ですが、この世界を保っていくために本当に必要なことについて語られていました。いずれもが、とても貴重な内容であり、是非とも多くの方々と共有させて頂きたいと強く感じました。みなさま、どうぞこのニューズレターを多くの方がへ手渡し頂ければ本当に有難いと思います。

今井洋介, 関谷裕一, 大木優

第13回魚沼浦佐例会実行委員(敬称略)

実行委員長: 黒岩卓夫

実行委員 : 上村光男